

担い手

連携

多世代交流

福祉

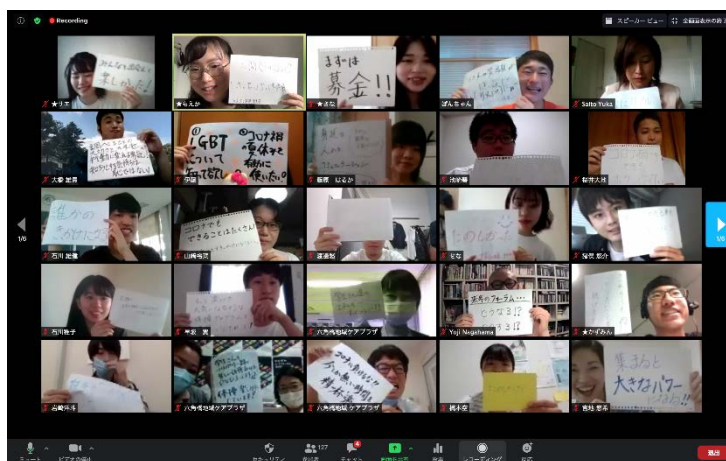
神奈川県内の地域情報を紹介する

地域のわ通信

発行 ▶ 区政推進課 地域力推進担当 411-7026

若者がボランティア活動に踏み出す
きっかけをつくる！

かながわ ユースフォーラム



▶参加者交流を重視したオンライン開催

■若者による若者のためのイベント

ボランティアに関心を持つ神奈川県内を中心としたユース（主に大学生や高校生）を対象に、「かながわユースフォーラム（以下、フォーラム）」が、7月18日（土）にオンラインで開催された。

若者が様々な地域課題を知り、考え、交流することを目的とし、その機会を若者が提供する参加型イベントで、資金はかながわ地域支援補助金（※）を活用した。

きっかけは、神奈川大学人間科学部の齊藤ゆか教授が、同大学の社会教育課程で学ぶ学生らに「学生主体で地域とつながる経験をしてほしい」と呼びかけたこと。実行するにあたっては、齊藤教授が、日頃からつながりのある地域の大人（神奈川大学、区社協、六角橋地域ケアプラザ、NPO法人アクションポート横浜）にも声をかけ、地域の大人アドバイザーとして、学生の主体的なイベントの企画運営を見守ってもらった。

主催の中心メンバーは、呼びかけに反応した神奈川大学の社会教育課程で学ぶ学生ら6人。

実施する人も参加する人も主役は「若者」で、地域の大人は見守り役に徹し、若者が企画、HP、チラシ作成など、当日までの運営・準備に関わった学生は31名となる。

当日の参加者は141名。神奈川大学の学生のほか、区内の専門学生や他大学の学生、人数は少なかったが高校生も参加した。

■フォーラム当日プログラムは

プログラムは、主催の地域の大人アドバイザー代表である齊藤教授の挨拶でスタートした。

全体会では、ボランティア活動の実体験を聞き、その後、分科会として「世代間交流」「災害」「多文化共生」など7つのテーマに分かれ、意見交換をした。ボランティアには興味はあるがなかなか参加に踏み出せない人や新しい出会いや経験を求めている人の背中を押す交流につなげだ。

最後に各分科会から振り返りがあり、参加者全員で情報共有をし、ボランティア活動の幅を広げる機会とした。

■開催はオンラインで！



▶「画面の中に可能性を感じる」笑顔にあふれる フォーラムになった！

当初は神奈川大学を会場に実施する予定だったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響でオンライン開催になり、それによって当初計画していた時間の短縮や内容の改訂が必要になった。主催の学生代表の中島さん(神奈川大学3年生)は「大学が学内入構禁止となっていて、フォーラムの企画運営をする学生メンバーと会って打合せができず、オンライン会議でほぼ毎週のように話し合いをしました」さらに「大人数の人が参加するフォーラムで初のオンライン開催でもあり、困った時は地域の大人のアドバイスをもらいながら、綿密に計画を練りました」と、急な企画変更戸惑いながらも、オンライン開催に対応したことを話した。

開催時間は13時30分から16時まで。オンライン上で参加者の交流が進むようにアイスブレイクやグループワーク、チャットを取り入れた。特にアンケート機能やチャットの活用は、参加者が聞きたいことをその場で質問することができ、参加者がフォーラムを自らが参加しているような体感につながった。

参加者からは、「最後まで飽きずに多くの方と交流ができて充実した時間だった」「内容にメリハリがあり、オンライン上でも参加している感じがかった」など、プログラムの流れを好意的に受け止めている感想が多かった。

■若者が地域の力になるきっかけの場

「若者自らが、一步踏み出すひろがる未来」をコンセプトに開催された今年度のフォーラム。コロ

ナの影響で対面式の開催が叶わずオンライン開催となったが、フォーラム後の参加者から「ボランティアを自分の経験に加えたい」「ボランティアの入り口やきっかけはいろいろあることがわかった」「ボランティアのイメージや意識が変わった」などの手応えを感じるコメントの多さに、今から来年度への期待が膨らんでいる。

地域の大人アドバイザーの一人である長浜洋二さん(モジョコンサルティング合同会社代表)は「画面の中に可能性が見えました」とフォーラムの手応えで締めくくる。学生代表の中島さんは「ようやく終わったという感じです。疲れましたが充実感があります」と笑顔で語った。地域の大人代表の斎藤教授は「今回、運営や企画を経験した学生はアドバイザーとなり、さらに若者のネットワークを創ろう」と来年に向けたエールを贈る。

若者に向けた「知る」「考える」「交流する」「かかわる」を軸として、若者の「やりたい」を応援するきっかけとして開催されたフォーラムは、来年度以降も継続されることで、若者がボランティア活動を通して、地域の力になる可能性が大きくなっていくのかもしれない。



▶オンライン会議を表現した チラシも学生作



▶フォーラムが終わり りホッとした様子の 学生代表の中島さん

★かながわ地域支援補助金

地域の課題解決を目指す自主的な事業を支援する補助金。さまざまな団体が新規に立ち上げる事業を応援するスタートアップコース、自治会町内会を含む2つ以上の主体が連携する自治会町内会スクラムコース、地域人材のすそ野を広げる地域人材マッチングコースがある。かながわユースフォーラムはスタートアップコース。